

出張講座の実施について

令和4年4月20日
広島県立美術館

1 趣旨

当館では、美術作品や展覧会の見どころなどをわかりやすく紹介する出張講座のメニューを、別紙のとおり用意しています。御希望に応じて、学芸員が会場に伺ってお話しますので、地域や学校などにおける鑑賞活動、相互交流の促進に御活用ください。

※新型コロナウイルス感染症の状況により、延期・中止する場合があります。

2 実施日時

随時（実施日時の変更をお願いする場合があります。）

3 所要時間

1 時間～1 時間半程度
（御希望に応じます。）

4 実施主体・会場

営利を目的としない県内の公民館や生涯学習センター、小・中・高等学校など

5 実施メニュー

詳細は、別紙1を御覧ください。

6 御用意いただくもの

- ・パソコン・プロジェクターなど
- ・講師旅費・材料実費（講演料は不要です。）

7 申込方法

- ・申込期日は、原則、開催希望日の1か月前までとします。
- ・別紙2の申込書に御記入の上、Fax又は郵送で、お申し込みください。
- ・日程等を調整しても御希望にそえない場合は、お断りすることがあります。

8 申込先

広島県立美術館 学芸課 森
〒730-0014 広島市中区上幟町 2-22
Tel. 082-221-6246/Fax 082-223-1444

(別紙1)

令和4年度 広島県立美術館 出張講座 実施メニュー

A コレクション・トーク

【日本の洋画】

1 風景画を楽しむ

講師：主任学芸員 角田 新

小林和作や中西利雄など、当館の所蔵する作家には魅力的な風景画を描いた画家が数多くいます。しかし一口に風景画といっても、その捉え方や切り口、そこから見えてくる世界などは、とても幅広く、それぞれに魅力的です。そうした作品の楽しみ方や読み解いていく手がかりなどを当館の所蔵する近代洋画の代表作から御紹介します。

2 水彩画の魅力

講師：主任学芸員 角田 新

南薫造や中西利雄など、当館の所蔵する作家には水彩画の普及に大きく貢献した作家が少なくありません。水彩画はその手軽さから、油絵などよりも1段低い表現とみられがちですが、実際には水彩画ならではの工夫や魅力にあふれています。油絵の力強さにも負けない水彩画を求めた中西利雄、水彩らしい柔らかな表現を追求した南薫造など、当館の所蔵する水彩の作品を通して、水彩に取り組んだ人々の魅力あふれる人物像にも触れながら、水彩画の魅力を御紹介します。

3 絵画に見る時代や歴史

講師：主任学芸員 藤崎 綾

当館の代表的な近代洋画を、作品が生まれた時代や社会的な背景などに注目して御紹介します。体験したことのない遠い時代の作品であっても、ある時期に共通する作風の傾向や当時のライフスタイル、多くの青年画家を魅了した特徴的な表現などを手がかりに読み解くことで、もっと身近に感じられるかも。作品の持つ、時代の息吹を感じてみましょう。

4 絵画の探検 ～楽しみ方のヒント～

講師：主任学芸員 藤崎 綾

一つの作品をじっくりと見ることで初めてわかる絵の魅力。当館の所蔵品を中心に、鑑賞の楽しさが見つかるヒントになるかもしれない、いくつかのポイントを御紹介します。主に児童・生徒対象です。

【日本画】

5 岡岷山と広島ゆかりの近世絵画

講師：主任学芸員 隅川明宏

広島城下の文化で最も有力な担い手は、広島藩主浅野家や広島藩士らでした。中でも絵画では岡岷山(1734～1806)の名声が別格です。彼らは、どんな絵を見て、求め、描いたのでしょうか。岷山や広島ゆかりの絵画作品とそれらの関係をみてみます。

【西洋美術】

6 ダリって誰？ 講師：主任学芸員 山下寿水

20世紀を代表する奇想の画家、サルバドール・ダリ（1904-1989）。広島県立美術館所蔵の大作「ヴィーナスの夢」を中心に、「無意識」の世界を描き続けたダリの画業を御紹介します。

7 戦争は美術をいかに変えたか 講師：主任学芸員 山下寿水

1914年に勃発した第一次世界大戦は、未曾有の被害をヨーロッパにもたらしました。多くの芸術家たちも戦争に参加し、その体験は近代美術に大きな影響を及ぼします。ダダやシュルレアリスム、新即物主義といった新しい芸術運動が生まれた流れをたどります。

【工芸】

8 広島がはぐくんだ伝統工芸「高盛絵」 講師：学芸員 岡地智子

「高盛絵」は漆と砥の粉を練り合わせたペーストを器面にのせ、立体的に盛り上げ、最後に色漆を塗って仕上げる技法です。江戸後期に名古屋で生まれたこの漆芸技法は、明治に入り、三代金城一國齋が広島で完成させました。当館所蔵の高盛絵作品を中心に、その技法と歴史を御紹介します。

9 色絵馬ものがたり 講師：学芸員 岡地智子

当館のマスコットの存在でもある「伊万里 柿右衛門様式 色絵馬」。江戸時代の初め、朝鮮半島や中国の技術を取り入れて生まれた色絵馬は、遠く海を渡りヨーロッパの人々を魅了しました。色絵馬の大いなる旅ものがたりを中心に、伊万里焼の歴史を御紹介します。

10 シルクロードのくらしと工芸を知る講座 講師：学芸課長 福田浩子

当館は18-20世紀中央アジアで作られ、使われてきた工芸品を約1000点所蔵しています。シルクロードで花開いた民族衣装やジュエリーなど工芸品、そして人々の生活など、現地写真をふんだんに御覧いただきながら御紹介します。（年間3会場限定）

11 中央アジアのスザニ刺繍ワークショップ 講師：学芸課長 福田浩子

当館は19-20世紀に中央アジアで作られた刺繍作品を数多く所蔵しています。森薫さんの人気漫画『乙嫁語り』に登場する刺繍等の手仕事は、現在も行われています。ユルマとボスマという刺繍ステッチで小さな作品を作ります。対象者は針を持って縫える方です。材料等は会場側で準備していただきます。シーチング等の布、25番又は8番刺繍糸（指定の色番）、フランス刺繍針、ペン、糸切りハサミ、作品によってクルミボタンキット又は小型刺繍枠又は小型フレーム（詳細は要相談）（年間3会場限定）

【その他】

12 話しながら見てみよう ―みんなで楽しむ美術鑑賞― 講師：学芸員 森 万由子

美術鑑賞の楽しみ方は、いろいろです。一人でじっくり作品と向き合うのも良いですが、ときには人と一緒に見ることで、それまで気付かなかった魅力を発見できることもあるでしょう。本講座では、当館の所蔵品をスライドで映し、対話型鑑賞を行います。学芸員のガイドに沿って、感じたことや気付いたことを話し合いながら、みんなで作品を楽しんでみませんか。

13 名勝縮景園の歴史と美意識

講師：主任学芸員 隅川明宏

県立美術館に隣接する名勝縮景園は、1620（元和 6 年）に広島藩主浅野長晟が上田宗箇に命じて作庭させ、昭和 15 年（1940）に浅野侯爵家から広島県に寄贈された池泉回遊式の大庭園です。関連作品を交えて、およそ 400 年の歩みを御紹介します。

14 浅野家の宝物館「観古館」と県立美術館の歴史

講師：主任学芸員 神内有理

「観古館」とは、縮景園の一角に、大正 2（1913）年に旧広島藩主・浅野長勲により設立された美術館です。この設立は、私立の美術館としては全国的に極めて早く、浅野家の文化に対する見識の高さを示しますが、残念ながら原爆によって消失しました。本講座では、当時の様子を伝える資料類から、戦前の文化都市としての広島の姿を御紹介します。

B 特別展のためのとくべつ講座

15 『国立国際美術館コレクション 現代アートの 100 年』展を楽しむ

講師：主任学芸員 山下寿水

展覧会会期：令和 4 年 4 月 2 日（土）～5 月 29 日（日）

20 世紀初頭、美術（アート）の世界は大きく変容しました。常識を覆す作品が次々と現れ、美術に対する見方・価値観は大きく揺らぎます。

本展覧会は、20 世紀の絵画に多大な影響を与えたポール・セザンヌや、現代美術の父とも呼ばれるマルセル・デュシャンら巨匠に始まり、ポップアートの旗手アンディ・ウォーホル、日本を代表する現代作家である草間彌生や森村泰昌、奈良美智まで、国立国際美術館が収蔵する国内外の作家たちの名品約 70 点で今日までの美術の動向を辿ります。

16 『第 69 回日本伝統工芸展』

講師：学芸員 岡地智子

展覧会会期：令和 5 年 2 月 15 日（水）～3 月 5 日（日）

本展では、人間国宝から新進気鋭の若手まで、陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・人形・諸工芸のそれぞれの分野で活躍する作家の作品が集います。展覧会をさらに楽しんでいただけるよう、伝統工芸品の素材や技法などを御紹介します。